

Message

栄養ケア・マネジメントが もたらすもの



鈴木歯科医院院長/
日本口腔ケア学会理事長
鈴木俊夫

本人・家族・介護者から、「最近、食べ物や喉を通りにくくなってきた」とか、「食べ物や味が偏ってきた」、「食べる量が減ってきた」、「味覚が変わった」、「味がわからない」など、食べることに付いての質問を寄せられることがあります。歯学部や歯学部の学生時代に栄養学を選択していましたが、栄養の知識は全くと言っていいほど持ち合わせておりません。

歯科医師の栄養に関する知識の無さを改めて反省し、教育の必要性を思い知らされています。さらにここ数年、管理栄養士さんと仕事を協働する機会が多くなり、管理栄養士さんの業務の多さや知識の深さに気が付く半面、医師の栄養に関する知識不足や無関心さに驚きました。

夢や希望を抱いて就職しても、不必要な業務、看護師の無理解、調理師とのあつれき、低賃金などで、小さくなっていく様子を見聞きするにつけ、管理栄養

士に権能がほとんどないのを、とても残念に思います。

改正介護保険法が施行され、栄養ケア・マネジメントが導入されたことを機会に、喫食風景を観察し、喫食量を確認し、喫食環境を整え、歯科関係者等と情報交換をし、ぜひ、管理栄養士さんが、生き生きとして働ける職場にしてほしいと思います。

最期の時まで、美味しく食べたいものです。今こそ、管理栄養士さんの知識が求められています。